

空気より軽い12A、13Aガス用

COSMOS

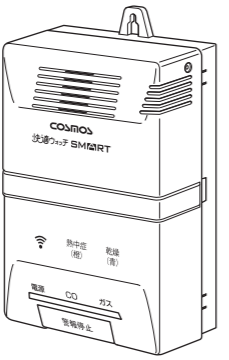
家庭用 ネットワーク機能付き

快適ウォッチ SMART 快適環境おしらせ

ガス・CO警報器

型式名 **XW-735**

施工説明書(施工される方へ)



W735CS_(00)_

お客さまにこの警報器を安全に正しくご使用いただくために、この施工説明書をよくお読みいただき、指定された取り付けを行ってください。

1 お願いとご注意

警報器を正しく設置していただくため、また、あなたやお客さまへの危害や財産への損害を未然に防止するためにこの施工説明書には、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

警告 作業を誤った場合に、取付業者および使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

注意 作業を誤った場合に、取付業者および使用者が傷害を負う場合または物的損害の発生が想定される内容を示しています。

2 施工される方へのお願い

●警報器を更新する場合は、交換前の警報器の電源プラグ部分について以下の確認を行い、お客さまに正しい取扱方法を説明してください。

- ①電源プラグの刃が曲がっていないか
曲がっている場合は、電源プラグに大きな力を掛けないようにしていただくことを説明。
- ②予備コンセントに接続される機器のプラグが曲がっていないか
曲がっている場合は、接続される機器のプラグに大きな力をかけた使い方をしないようにしていただくことを説明。
- ③予備コンセント部が焦げていないか
予備コンセントの容量を超えた消費電力の機器を接続しないようにしていただくことを説明。
- ④予備コンセントに接続される機器の消費電力が予備コンセントの容量を超えていないか
予備コンセントの容量を超えた消費電力の機器を接続しないようにしていただくことを説明。
- ⑤電源プラグ部分(予備コンセント含む)に水分やほこりがかかっていないか
電源プラグ部分(予備コンセント含む)に水分をかけないこと、ほこりがかかっている場合は取り除いていただくことを説明。

●取付終了後に施工説明書に従って「6-1 自動初期点検機能の確認」、および必要に応じて「6-2 作動点検」「6-3 コネクトセンサー・アプリの確認」を行ってください。なお、作動不良の場合は交換してください。

●必要に応じて、「3-1 警報器の説明」「3-2 お客さまへの周知事項」についてお客さまに説明を行い、ご理解を得てください。

●警報器を梱包から出された状態で持ち運びまたは保管しないでください。

注意
警報器には、落下などの強い衝撃を与えないように、取り扱いには十分に注意してください。
故障や誤作動の原因になります。

3 お客さまへの説明について

3-1 警報器の説明

- ①警報動作および自動初期点検機能の結果の説明。
作動点検をした場合は、作動点検の結果の説明。
- ②取扱説明書を必ず読んでいただくこと、取扱説明書を保管していただくことをお願い。
- ③取扱説明書に基づく主要な機能の説明と確認。
 - 1.ガス警報の内容(赤(ガス警報)ランプ点滅・点灯、音声合成音の確認)と、警報時にとるべき処置の説明。
 - 2.CO警報の内容(黄(CO警報)ランプ点滅・点灯、音声合成音の確認)と、警報時にとるべき処置の説明。
 - 3.ガス警報、CO警報の同時警報の内容(赤(ガス警報)ランプと黄(CO警報)ランプの点滅・点灯、音声合成音の確認)と、警報時にとるべき処置の説明。
 - 4.部屋の外にいて、ガス警報、CO警報に気づいたときにとるべき処置の説明。
 - 5.熱中症おしらせの内容(橙(熱中症)ランプ点灯、音声合成音の確認)と、おしらせ時にとるべき処置の説明。
 - 6.乾燥おしらせの内容(青(乾燥)ランプ点灯、音声合成音の確認)と、おしらせ時にとるべき処置の説明。
 - 7.誤報が発生する原因と処置の説明。
 - 8.スイッチ操作の説明。
 - 有効期限切れ音声機能
 - 警報音停止

3-2 お客さまへの周知事項

- ①保証期間5年(警報器、コネクトセンサー)。
- ②警報器の有効期限のお知らせ。(本体に貼付の有効期限ラベルに表示)
- ③保証書を必ず読んで内容を理解した上で取り扱うこと。
- ④警報器の移設禁止。(移設依頼時の連絡先)
- ⑤警報器の分解禁止。
- ⑥サービス配信のための専用アプリ(コネクトアプリ)のインストール・アプリの会員登録を行っていただくこと。
- ⑦警報器とお客さまがお持ちの無線LANルーターとの接続を行っていただくこと。
- ⑧コネクトセンサーの設定・設置を行っていただくこと。
- ⑨二次元コードが表示されたシールは大切に保管すること。
- ⑩廃棄の際に必ずネットワーク情報の初期化を行っていただくこと。(取扱説明書P.10参照)
- ⑪引越時の処置。
- ⑫故障・異常時の連絡先。

4 取り付け前の確認

4-1 警報器の確認

取り付ける警報器が空気より軽い12A・13Aガス用であり、本体、電源コードに異常のないことを確認してください。

4-2 梱包部品の確認

本体…1個		取付板…1個	
コード収納カバー…1個		取付板…1個	
コード振れ止め…3個		ピン 長さ20mm…10本	
木ねじ 長さ16mm:1本 (警報器取り付け用)		長さ10mm:3本 (コード止め用)	
コネクトセンサー…1箱		登録IDシール…1枚	
取付フック…1個		取扱説明書(保証書付)…1枚	
		かんたん設定ガイド…1枚	
		施工説明書(本書)…1枚	

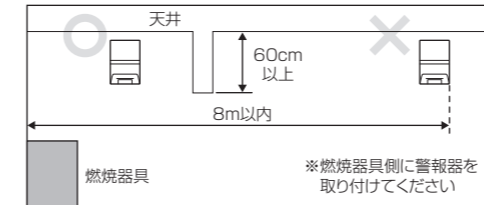
4-3 取付位置の確認

設置場所の選定については、お客さまとよく相談して決めてください。

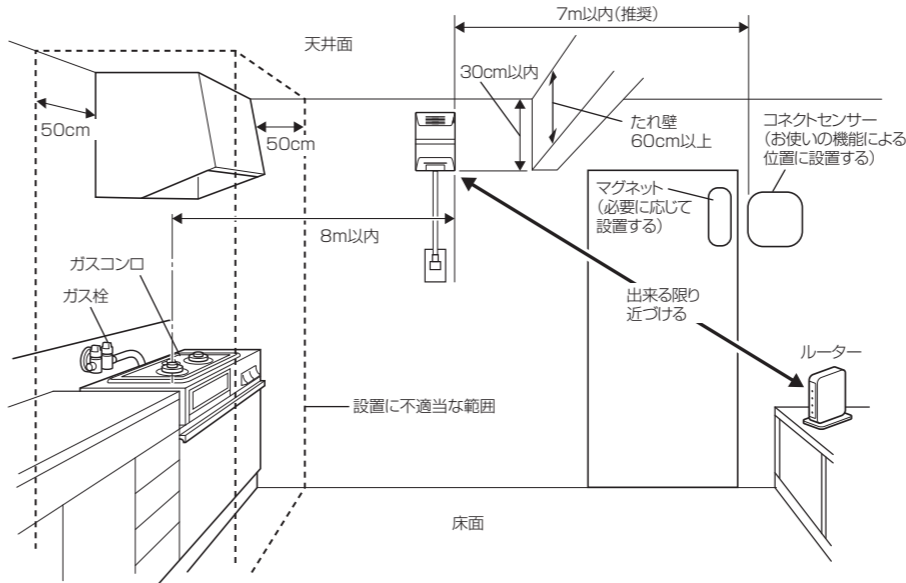
注意
正しい取付位置に取り付けてください。
取り付けてはいけない場所に取り付けると、警報の遅れ、誤報、故障の原因となります。

正しい取付場所について

- ガス、COを検知しようとするガス機器を設置している場所と、同一の室内に取り付けてください。
- ガスやCOが滞留しやすい位置で、緑(電源)ランプの確認しやすい位置、点検が容易にできる場所へ取り付けてください。
- ガス、COを検知しようとするガス機器(一定位置に固定しないで使用されるガス機器の場合はガス栓)から、水平距離で8m以内、警報器の底面から天井面までの距離が30cm以内に取り付けてください。
- 天井面が60cm以上の突出したたれ壁などによって区画される場合は、たれ壁より燃焼器具側に取り付けてください。



■取付例 ※天井面に接近して取り付けると、天井面が黒ずむ場合があります。



取り付けてはいけない場所について

以下の場所には、絶対に警報器を取り付けしないでください。

- レンジフード内やレンジフード本体への取り付け。
アルコール等で警報することがあります。
- 換気扇、給気口、ドア付近など風通しの良い場所。
- すき間風の入る場所。
- 30cm以上(警報器含)のたれ壁などの下。
警報が遅れたり、検知できないことがあります。
- たれ壁60cm以上で区切られている場所。
- エアコンなどの吹出口に近い場所。
警報が遅れたり、検知できないことがあります。
- ビルの給湯室など夜間電源を切る場所。
- 使用時でないと電源を入れない場所。
警報器としての機能を果たしません。
- 温度が0~+50℃の範囲をこえる場所。
警報器としての機能を果たしません。
また、誤作動の原因になります。
- 屋外。
屋外では使用できません。
- 工業用。
工業用ではありません。

無線通信について

- ルーターと適切な通信を行うために、警報器とルーターとの距離を近づけたりアンテナの角度を調整するなど、通信環境を良くしてください。
- ルーターには接続台数の制限がありますので、ルーターの取扱説明書などをご確認いただき、接続数の上限を超えていないことを確認してください。
- 周囲に、電子レンジなど電波干渉を起こしやすい家電製品などの障害物がある場合は、障害物を移動するなど見通しを良くしてください。

コネクトセンサーについて

- コネクトセンサーには4つの機能があり、それぞれ使用方法・設置場所が異なります。別紙「かんたん設定ガイド」をご覧ください。
- コネクトセンサーと警報器は通信が届く距離に取り付けてください(推奨:直線距離7m以内)。コネクトセンサーと警報器との距離が離れていたり遮へい物があるとコネクトセンサーのデータは警報器に届きません。
- コネクトセンサーは両面テープで設置する場合があります。設置場所によっては塗装面や壁紙を剥がしてしまうことがあります。設置場所の選定は十分にご注意ください。
- 設置場所によっては落下の恐れがありますので、必ず設置後に確認を行ってください。

●カーテンウォールなどで仕切られた場所。
警報が遅れます。

●振動、衝撃の激しい場所。
センサの故障の原因になります。

●燃焼器具などの排気、湯気、油煙および調理用アルコールの蒸気が直接かかる場所。
センサ寿命が短くなったり、誤報の原因になります。

●浴室内、水のかかる場所、水滴がつく場所。
感電や電氣的故障の原因になります。

●ガス検知口に他の機器などを密着させないでください。
警報が遅れることがあります。

●コネクトセンサーについて、
・浴室や脱衣所、コンロの近くなど、湿気が多い場所や水のかかる可能性がある場所。
故障や誤作動の原因となります。
・直射日光の当たる場所、極端に低温になる場所、ほこりの多い場所。
故障や誤作動の原因となります。
・設置する接着面が汚れていたり、凹凸があったり、濡れているところ。
センサーを接着できないことがあります。また、粘着力が弱く落下するおそれがあります。

5 取り付けかた

5-1 有効期限の記入

この警報器の有効期限は、取り付け後5年間です。必ず、警報器本体に貼ってある「有効期限ラベル」に、有効期限の年月を記入してください。

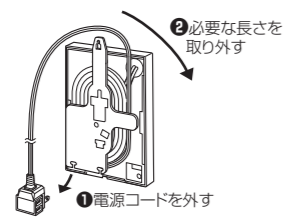


5-2 電源コードの長さ調整のしかた

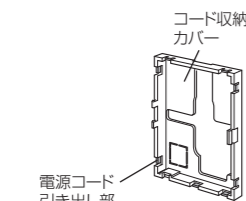
△ 注意

無理な力を加えると、コード止め部でコード収納カバーを破損する恐れがあります。

①電源コードをコンセントの長さに合わせて取り出す。



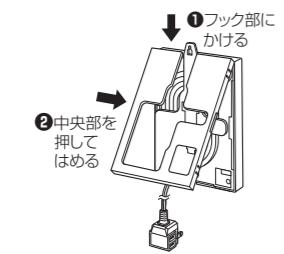
②コード収納カバー側面の電源コード引き出し部(8箇所)から1箇所を選び、リップを取り除いて溝を作る。



③溝に電源コードをはめ込む。



④コード収納カバーをフック部にかけてから、警報器本体に取り付ける。



5-3 警報器本体の取り付け

△ 注意

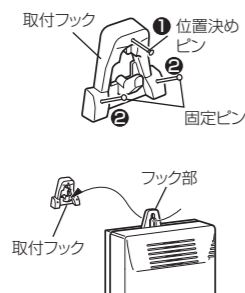
- 取付位置の材質・強度を確認し、土壁や強度の弱い合板には取り付けしないでください。
- 警報器の取付時に、警報器を落とさないように注意してください。センサの断線など、正常に作動しない恐れがあります。

付属の取付フックで取り付ける場合(石膏ボード壁専用)

△ 注意

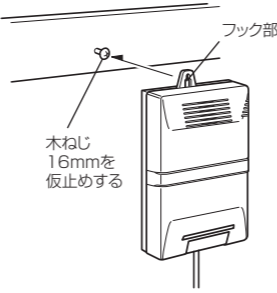
- ピンを指に刺さないように、取り扱いには充分注意してください。
- 取付フックの穴にピンを差し込むときは、硬いので適切な工具を使い充分注意して作業を行ってください。
- 取付強度を保持するため、ピンは根元まで確実に打ち込んでください。
- 万一、ピンがゆるんだ場合は、取付位置をずらしてピンを付け直してください。

- ①取付フックを壁面に押し当て、位置決めピンを垂直に打ち込む。
- ②取付フックを垂直位置にした状態で、取付フックの固定ピン(左右2箇所)を斜めに打ち込んで固定する。
- ③本体のフック部を、取付フックに引っかける。



木ねじで取り付ける場合

- ①木ねじ(16mm)を途中までねじ込み、仮止めする。
※コンクリート壁の場合は、市販のカールプラグ(φ3.1mm木ねじ用)を打ち込んで木ねじを使用してください。

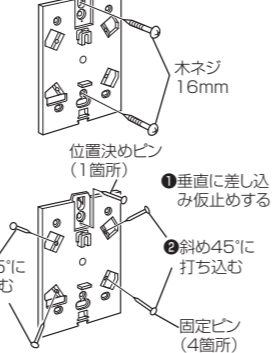


- ②電源コードをコンセントまでの長さに合わせて取り出す。
- ③仮止めした木ねじに、本体のフック部を引っかける。
- ④木ねじを締め付け、本体を固定する。

付属の取付板で取り付ける場合

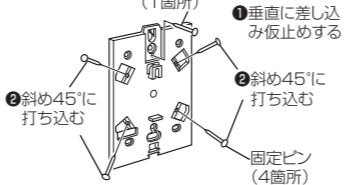
〈木質壁・コンクリート壁の場合〉

木ネジ(16mm)を図のようにねじ込み、取付板を固定する。
※コンクリート壁の場合は、市販のカールプラグを打ち込んで、木ネジを使用してください。

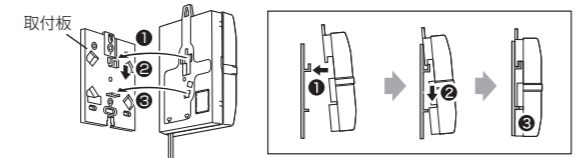


〈石膏ボード壁の場合〉

ピンを図のように打ち込んで、取付板を固定する。

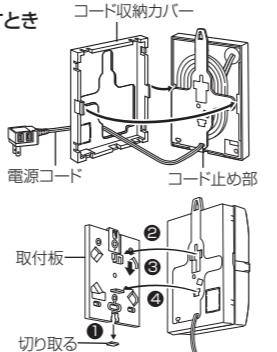


警報器本体を図のように取付板に取り付ける。



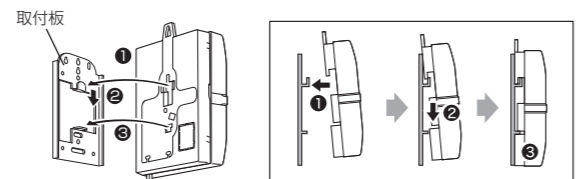
電源コードを本体中央から引き出すとき

- ①電源コードを3巻き以上外す。
- ②巻取板中央下のコード止め部から電源コードを引き出す。
- ③コード収納カバーの中央穴に電源コードを通し、コード収納カバーを警報器本体に取り付ける。
- ④取付板の電源コード用ノックアウトを切り取り、警報器本体を取付板に取り付ける。

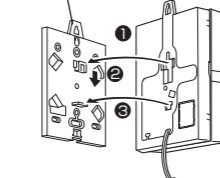


既存の取付板に取り付ける場合

警報器本体を図のように取付板に取り付ける。



樹脂製の取付板



〈確認〉

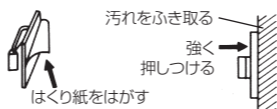
- 既存の取付板の位置に取り付ける場合、新しい警報器が正しい取付位置に取り付けられているかを確認してください。
- 取り付けた警報器にガタつきがないことを確認し、確実に固定されていることを確認してください。

5-4 コード振れ止めの取り付け

△ 注意

電気設備技術基準および内線規程により、電源コードはステップルや釘などで固定しないでください。電源コードに重いものを置かないでください。

①コード振れ止めのはくり紙をはがし、壁面に貼り付ける。



接着だけで取り付けできない場合

木ねじ(10mm)を使用する。



②電源コードをコード振れ止めにはめ込む。

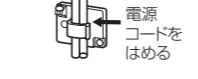


石膏ボード壁の場合

ピン(2本)を打ち込んで固定してください。



②電源コードをコード振れ止めにはめ込む。



※警報器が電源コードに引っ張られて傾くような場合は、付属のコード振れ止めを警報器のすぐ下に取り付け、いったんコードを真下に引き出して固定してください。コード振れ止めが接着だけでは弱い場合は、付属の木ねじ(10mm)またはピンを使用してください。

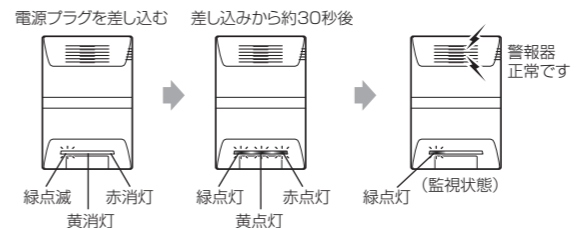


6 取り付け後の確認・点検

この警報器は、通電開始後の約30秒間でセンサを含めた内部回路が正常であることを確認する自動初期点検機能を有しています。「6-1 自動初期点検機能の確認」のみを行ってください。ただし、お客さまから要望があった場合は、「6-2 作動点検」を行ってください。

6-1 自動初期点検機能の確認

電源プラグをコンセントに差し込む。緑(電源)ランプが点滅し、約30秒後にランプが全点灯した後、正常であれば、「警報器正常です」と鳴って緑(電源)ランプが点灯に変わり、警報器は監視状態に入ります。万一、異常があれば、「故障です 販売店に連絡してください」と鳴りますので、警報器の交換をお願いします。※赤(ガス警報)ランプが点滅することがありますが、しばらくすると消灯します。



・緑(電源)ランプが点滅中は作動点検を実施しないでください。

6-2 作動点検

おねがい

この警報器は作動点検をスムーズに行うため、監視状態に移行後3分30秒間(電源プラグをコンセントに差し込んでから4分間)に限り、採取ガスに対して反応しやすい状態が保持されます。必ずその間に作動点検を行ってください。ただし、通電開始後の緑(電源)ランプが点滅している間(30秒間)は、ガスをかけてもセンサが反応せず、警報を発しないため、作動点検を行わないでください。上記時間を過ぎると、採取ガスに対して反応しやすい状態は解除されます。その場合は電源プラグを一度抜き、再度コンセントに差し込み直してから行ってください。また、上記時間内であっても一度作動点検を行うと採取ガスに対して反応しやすい状態は解除されますので、ご注意ください。

〈準備するもの〉

- 点検ガス採取器(別売品)
- ガスライター

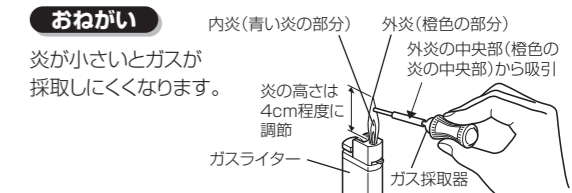


△ 注意

アルコールを主成分とした点検ガスおよびライター式の点検ガス(生ガス)は、使用しないでください。センサ異常またはセンサ故障の原因になったり、警報状態からの復帰に大変時間がかかることがあります。

〈点検ガス採取器を用いて点検する場合〉

①ガスライターを点火し、炎の高さを約4cmに調節する。



- ②点検ガス採取器の容器部分を十分圧縮して、採取管の先端を炎の外炎の中央部へ持つていく。
- ③容器の圧縮をゆっくり(約3秒程度)ゆるめ、炎の中からガス成分を吸引する。

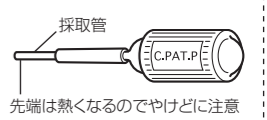
おねがい

長時間加熱すると、ガス採取器が破損することがありますので注意してください。

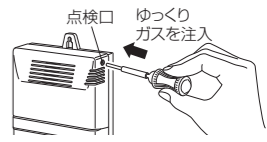
④点検ガスの採取が終わったら、速やかに点検ガス採取器を炎から離し、ガスライターの炎を消す。

△ 注意

炎から出した直後の採取管は、先端が非常に熱くなっています。絶対に触らないでください。やけどをする恐れがあります。



- ⑤採取管の先端部分の温度が下がるまで(約30秒程度)待つ。
- ⑥採取管の先端部分を警報器の点検口にしっかり押し当てて、容器を圧縮し、採取したガスをゆっくり(約3秒程度)注入する。

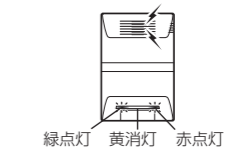


△ 警告

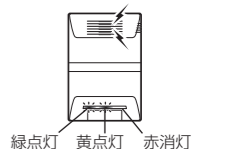
採取したガスは、警報器の点検以外には使用しないでください。直接吸引するとCO中毒を起こす恐れがあります。

⑦赤(ガス警報)ランプが点灯し、ガス警報音(「ウーウーピッピッピッピッピッガスがもれていませんか」)が鳴り、黄(CO警報)ランプが点灯し、CO警報音(「ウーウーピッピッピッピッピッ 空気が汚れて危険です 窓を開けて換気してください」)が鳴ります。吹き掛けのタイミングにより、ガス警報とCO警報の順番が逆になったり、交互に鳴る場合があります。

ウーウーピッピッピッピッピッピッ
ガスがもれていませんか



ウーウーピッピッピッピッピッ
空気が汚れて危険です
窓を開けて換気してください



⑧ガスがなくなると、赤(ガス警報)ランプと黄(CO警報)ランプが消灯します。

おねがい

警報音が鳴りやまない場合は、電源プラグをコンセントから抜いて再度「6-1 自動初期点検機能の確認」を行ってください。

6-3 コネクトセンサー・アプリの確認

設置した箇所でコネクトセンサーが動作するかをアプリの画面上などでご確認ください。動作確認の詳細については、別紙「かんたん設定ガイド」をご参照ください。